

事業所名： グループホーム 太陽荘（花ユニット）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200410		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム 太陽荘（花ユニット）		
所在地	〒028-3614 事業所住所 岩手県紫波郡矢巾町又兵衛新田第5地割28		
自己評価作成日	令和7年9月16日	評価結果市町村受理日	令和7年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○現在70代から90代まで幅広い年齢層の方が暮らしており、ご利用者一人ひとりのペースを大事にしたケアを実践できるよう努めている。
 ○近隣の保育園や、幼稚園児童館との交流や地区の行事などを通して、地域との繋がりを深めるように努力しているが、コロナ禍の影響により見合わせている。
 ○毎月、職員の知識や技術、教養を高めるよう、内部研修を行っている。
 ○職員のリフレッシュを目的に、長期休暇の促進や、時間での有給休暇を利用して、子どものいる主婦層でも安心して働ける環境を作っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、新しい住民と昔からの住民が入り混じっている地域にあり、事業所の大きな窓からは、岩手山や南昌山などの山々、畑や田んぼが見え、利用者の癒しとなっている。また徒歩圏内にJR矢幅駅や矢巾町役場、田園ホールなどがあり、近くには保育園や幼稚園、公民館、スーパーマーケットもあり、地域との付き合いや利用者の日常的な外出の支援に取り組みやすい環境にある。職員は理念をもとに、利用者の尊厳と笑顔の絶えない日々を送っていただくために、内部研修や様々な会議(ユニット、リーダー、全体)を積極的に開催し、利用者と行動を共にしながら利用者に寄り添い、日々の暮らしを支えている。ホームでの利用者の状況を毎月担当者から知らせており、家族から感謝されている。医療面でも、ホームの看護師、訪問診療の医師、訪問看護の看護師、かかりつけ医との連携ができていて、職員や利用者は安心感を持って日々の生活を過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年10月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝礼時に職員全員で理念の唱和を行っている。また、一定の場所に張り出し、それに基づき日々実践につなげている。	「人としての尊厳を守る、共生・共同の精神、自己実現への導き」とする事業所理念は、開設当初に作成された。毎朝の朝礼時に職員全員で唱和し、更にユニット毎のミーティングにおいても確認しながら実践に繋げている。利用者の尊厳を守ったケアをカンファレンスで振り返り、協働の精神で利用者と共に行動している。来年度は、理念に基づいた年目標を作成し、極め細やかなケアを目指して取り組もうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との交流はコロナ禍で中止となっているが展示会への利用者の作品提供は行っている。今後は様子を見ながら可能な限り地域の一員として参加する方向で交流支援を行っていく。	町内会に加入し、地域の公民館主催の文化祭に利用者の作品を展示している。事業所周辺の散歩は欠かさず行っており、近隣住民と挨拶や雑談をし、野菜の差し入れをいただいている。また毎月第2土曜日に開催されるオレンジカフェに参加し交流を深めている。今年は、湯沢地区のさんさ踊りの団体が来所し、さんさ踊りの披露もあり、利用者は大喜びしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	家族介護教室などを開催し地域の方々へ認知症の人への理解を深めていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一度会議を行い、警察や消防、地域の代表の方々やご家族様の代表の方々よりお話をいただきながらサービスの向上に努めている。	自治会長、民生委員、近隣代表、家族代表、利用者代表、矢巾交番、地域包括支援センター、矢巾町で構成され2か月毎に開催している。事業所からの発信に終始せず、消防署員からは救急搬送や火災について、警察署員からは交通ルールと自転車の乗り方について、貴重な情報や助言をいただく場ともなっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	役場の担当者とその都度相談や話し合いを行い助言をいただきながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議メンバーに、役場担当課と地域包括支援センターの職員が参加し、情報交換や相談しやすい関係が出来ている。介護保険関係の手続きや要介護認定申請、事故報告等で直接担当課に出向くことにより、お互い顔の見える関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束対策委員会を設け荘内理念に基づき、身体拘束防止の取り組みや研修を行い理解を深めている。	毎月カンファレンスで、身体拘束防止のための話し合いを行い、またスピーチロックを防ぐための研修会を年2回行っている。また毎月開催されるリーダー会議の後、管理者、荘長代理、各ユニットリーダー、サブリーダーの話し合いで、身体拘束をしていないケアの確認を行っている。玄関の施錠は、防犯のため夜のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	荘内研修やカンファレンスにおいて話し合いを行いながら虐待が起こらないように声かけを行い対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が学んだ制度について全体会議やカンファレンスにおいて全職員で共有しここでの必要性に対応できるように支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約の際は管理者のほかケアマネジャーやユニットリーダーも同席し、家族様にも十分な説明を行うとともに疑問点にも丁寧に対応し納得いただいている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営会議には利用者様、家族様にも話し合いに参加していただきながら意見や要望を汲み取り施設運営に反映させている。	事業所での生活の様子が分かるよう年2回広報誌を発行し、居室担当者から生活の様子をお知らせするお便りを毎月発行している。そのうえで運営推進会議へ家族代表、利用者代表に参加していただき意見、要望を汲み取るようにしている。また病院同行や面会に来所した時や電話連絡する機会を活用し、意向を伺うようにしている。利用者の意見や要望は、日々の生活の中から把握するよう努めている。	毎月の便りに、日常の生活の様子が伺えるスナップ写真を取り込み送ることにより、より家族の安心と事業所との連携が強化されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やカンファレンスにおいて意見や提案を聞ける機会を設け運営に反映できるように努めている。	ユニットの職員が参加する「ユニット会議」、全職員が参加する「全体会議」の中で職員から意見や提案を受け、業務の中で話された意見等は連絡ノートやタブレットに入力し、全職員が毎朝目を通すことで共有している。管理者と職員の個別面談を実施すると共に、年度末には法人の経営者との面談も行い、職員の要望等を聞いている。資格取得の試験費用は会社が負担し、資格を取得すれば給料に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の生活状況や就業形態の希望を汲み取り、各自やりがいの持てる職場環境を整え、向上心を持てるように努めている。また、ここでの面談も定期的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得や技術の向上を図れるように研修などの参加を働きかけ資格取得に向けて取り組んでいる。		

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の連絡会などへ参加し交流を深め意見交換などで得た情報を施設に持ち帰り、サービスの質の向上につなげられるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様の情報を職員間で共有しながら本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様が面会や通院された際に希望などをお聞きし対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族様が必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人ができることは行っていただき職員は声掛けや見守りを行い行動を把握し。生活ができるように努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の生活状況をお伝えするために、月に一度お手紙をお送りし、必要に応じて連絡を取りながら情報の共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人との会話で得た情報を職員間で共有し支援に役立てている。	利用者が高齢になり、馴染みの人の来訪は、少なくなる状況にある。家族が病院同行で来所した際に、自宅へ寄ったり、外食や買い物、墓参してくる方もある。毎週来所する訪問看護師、2週間毎に来所する訪問診療の医師、月1回来所する理容師が馴染みとなっている。また「花」「虹」のユニットと一緒に活動している事で、お互いの利用者同士で馴染みの関係が出来ている。職員は、関係が途切れないよう継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間の関係を把握しかかわりを持てるように、職員が間に入って孤立することのないように、支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても関係性を大切にしながら、必要に応じて支援を行っている。		

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の訴えを傾聴し、その人らしい暮らしができるように支援を行い、困難な場合は代替え案で対応している。	日々の生活の中で思いや意向の把握に努め、対応している。「虹」の2名は思いを伝える事が難しいため、聞き取れない時や難しい時には、丁寧に問い掛けをしたり、身振りや手振りの仕草を見て判断している。把握した情報はタブレットに入力し、職員間で共有しながらケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族様からの会話を通して、これまでの暮らしを把握し、出来るだけ本人らしい生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のバイタルチェックを行い心身の健康状態を把握し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスにて職員同士で話し合いや意見を出し合い、利用者様の暮らしをより良いものにするために介護計画を立てている。	入居時のアセスメントをもとに、1カ月の暫定プランを立てている。その後居室担当者を中心にモニタリングを行い、カンファレンスで職員全員が意見を出し合っており、家族の意向や医療関係者の意見も取り入れ、計画作成担当者が現状に即したプランを作成している。3ヵ月毎に夜勤職員以外の全職員と会社代表も参加したカンファレンスを行い、計画の変更が必要となった場合には、看護師、主治医、家族の意向を踏まえ、全員で見直している。	計画の変更には、家族の同意が必要なことから変更案を郵送し同意をいただいておりますが、予め口頭で変更の理由を丁寧に説明し、同意を得たうえで郵送することにより、より家族との関係が深まることが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に基づき利用者様の様子を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の状況や家族様の希望に沿って通常行っていないサービスにも柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本年も感染予防の為地域の行事に参加することはできなかったが、地域資源を把握し活用することで、住み慣れた場所とのつながりを断ち切ることがないように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人と家族様が望むかかりつけ医の受診を継続し、主治医とも情報の共有を行うことで、適切な医療を受けられるように努めている。	7人が入居前のかかりつけ医を継続利用している。通院に家族が付き添うのは3人、職員が付き添うのが4人、2週間おきに来る訪問診療医の利用は5人となっている。通院時には、毎回個人のバイタルチェック表を持参し主治医に報告し、家族が付き添う場合は、バイタルチェック表に加え、職員が通院メモを作成して利用者の様子が伝わるようにしている。通院結果は、すべて記録に残し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設の看護師、訪問看護師と連携し、体調の相談など適切な指示を受けられるように、情報共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院に早急に情報提供を行っている。治療の経過を職員と共有し、早期退院を目指している。		

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期について家族様や医療機関と相談し、情報共有しながら方針を決めている。	入居の際に利用者、家族に重度化した場合や、終末期の在り方について説明している。看取りは行わないが直前まで支援を行い、利用者の体調をみて、特養への住替え又は医療機関への入院について説明している。事業所は、利用者や家族にとって一番良い方法を考え、情報共有しながら支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	荘内研修を行い、緊急事態に対応できるようにしている。急変時は、看護師への連絡が早急にとれる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に数度日中、夜間想定での訓練を行っている。水防訓練も行っており、二階への昇降訓練を実施している。	火災訓練と水害訓練を年2回ずつ実施している。火災訓練では、一回は消防署立ち合いのもとでの夜間想定訓練、他の1回は施設内での火災訓練を実施している。水害訓練は9月と3月に行い、発災時には2階への垂直避難としている。有事の際の避難場所を役場、ケアセンター南昌とし、事業所ではすぐ駆けつけることができるように予め役割分担を決めている。運営推進会議のメンバーに声掛けし、協力を仰ぐことも検討している。1週間分の食料品、飲料水、毛布や石油ストーブを備蓄している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりを理解し、プライバシーに配慮しながら支援を行っている。	運営理念で示す人としての尊厳を常に意識し、人生の先輩として敬い、一人ひとりの希望やペースを尊重した支援に努めている。プライバシー保護の研修を実施し、特に入浴や排泄時には、十分配慮しながら言葉かけを行っている。トイレ使用の際には、カーテンを閉め、ドアの外で待ちながら見守りし、入浴の際には、バスタオルを使用して次の人との間隔を取り、緊張をほぐすように努めている。言葉掛けで気になった時には、荘長又は代理が場所を替えて指導している。	
----	------	---	----------------------------------	--	--

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや自己決定を尊重し支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの希望やペースを大切にし個々に合った日常を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好みや服装など季節に合った身だしなみができるように家族様に相談し支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや食器などに気を配り提供している。本人の能力に合わせて、食器拭き等をしていただいている。	献立は3人の担当が、高齢者の食材を扱う業者のサンプルメニューから選択して献立を考えて発注し、週に3回届けてもらい、在庫管理しながら勤務職員で調理している。行事食は、外注の寿司など利用者に評判のいいものや手作りの物を提供している。特に、ミキサー食を摂っている利用者には、寿司の形と色が分かるようなもの探し提供している。お正月には手作りのおせちを作り、食事が楽しみとなるよう工夫している。利用者はテーブル拭き、洗濯たたみ、みそ汁の味見等、できる事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職位摂取の様子や摂取量を確認し一人ひとりに合った形態や量で提供している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に見守り、もしくは介助にて行っている。義歯のある方は、夕食後に洗浄剤にて一晩消毒をしている。また、月一度の訪問歯科の指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、必要に応じてトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう時間を見計って声を掛けている。自分で排泄出来る利用者が多く、入居前には失禁の多かった方がトイレでの排泄が可能になった例もある。布パンツ利用者は、「花」ユニット、「虹」ユニットとも2名ずつで、他の利用者はリハビリパンツやパットを使用している。尿量をチェックしてサイズ変更をし、出来るだけ無駄を省いており、入居後、排泄リズムが確立され、小さいパットの使用に移行した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	こまめな水分補給や食事の工夫をしながら、便秘の予防をしている。適度な運動として、レクやテレビ体操を行い運動をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	日中の時間帯に、なるべく利用者様の希望に沿いながら行っている。	週2回の午前中の入浴としているが、利用者の希望で、午後に入浴することもある。主治医からの指示で入浴を減らし、家族の了解を得てシャワー浴にしている利用者もいる。入浴を嫌がる利用者には、時間をずらしたり言葉かけを工夫しながら入浴を勧めている。また異性介助を嫌がる方には同性介助としている。入浴は、ゆったりと職員とコミュニケーションを取れる場であり、普段口にしない思いや昔話が聞けるなど、新たな発見の場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自分だけの空間として安心して休めるように、各居室の環境を整えている。居室だけではなくホールでもゆっくりできるように、ソファを置いたりして配慮している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局とも連携を取りながら、一人ひとりの内服薬を把握し、職員同士でも確認しながら服薬支援をしている。また、副作用が起きないように観察し、変化があった際には主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりが役割を持ったり気分転換しながら過ごせるように、生活歴を把握しながら趣味を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物での外出については、希望時に感染対策をしながら、認知症対応のお店へ出かけている。家族様と一緒に外食や外出も行っている。	天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、プランターの花植えや水遣りをしたり、屋上に出て洗濯ものを干したりと、出来るだけ戸外で外気浴が出来るよう支援している。また、町内の社会資源を活用した少人数で出かける機会を多く作り、地域交流を兼ねた活動も行っている。秋が終わるまでに、車窓からの紅葉狩りに出かける計画がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者にお伝えした上で、慎重かつ厳重に所持金をお預かりしている。希望に応じて、確認したり買い物ができるように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の携帯電話で、家族様や友人などとお話されている。携帯電話が無い方には、荘内の電話にて対応している。手紙が届いた際には、本人へお渡ししている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 太陽荘 (花ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様が不快なくホールや食堂で過ごせるように、明るさや室温に配慮している。季節感を取り入れるために、春夏秋冬に合った制作を行い掲示している。	食事スペースは広く、カウンター越しに調理の様子を窺え臭いなども感じることができる。食堂を挟み二つのユニットがあり、それぞれ大きな窓がある広い団らんスペースが設けられ、ソファに腰かけてテレビを見たり、テーブルに新聞を広げたりして、自分の好きなところでゆったりと過ごしている。壁には、利用者と職員が一緒に作成した季節感のある壁掛けなどがかけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓側には椅子を置いて、自由に外の景色を眺められるように工夫している。また、テーブルとイスも用意し、一人ひとりがいつでも新聞や本などを読めるように環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真や趣味の物など家族様にお持ちいただき、居室内においたり飾ったりしている。希望によっては、テレビやラジオも設置している。	居室には、ベッド、クローゼット、エアコンが備え付けられ、ラジオ、テレビ、衣装ケース、布団等、利用者が使い馴れたものを持ち込んでいる。中には卒業アルバムを持ってきて、眺めている利用者もいる。壁には自分で塗った塗り絵や孫の写真を飾り、居心地良く過ごしている。居室の入口には、母の日に作成した切り絵のカーネーションを飾ったり名前を貼ったりして、自分の居室が分かるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの「できること」を活かして見守りをするしながらテーブル拭きや洗濯物たたみ、食器拭き等無理のない程度に行っていたいでいる。		